

⑥2024年度 経営学研究科

PLAN(計画) →2024年4月までに	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討	
①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・将来構想プログラム委員会(カリキュラム検討委員会)で検討する(短期および中長期)。	
②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトの情報更新や追加を継続して実施。 ・現役院生・修了生の活動や業績等の情報発信。 ・BM/CMの公開報告会の位置付けや実施時期について再検討をする。 ・大学院説明会や修士論文公開報告会等の行事やBM/CM合同研究会への修了生参加の促進。 ・オンライン個別相談会を12月にも実施する。	
③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・新入生学修ガイダンス、2年・3年生の履修ガイダンスで内部特別選考について説明する。 ・内部特別選考の事前説明会で在学生が体験談を語る。 ・専門ゼミ担当教員へ前期中から内部進学の可能性のある学生の推薦を募る。	
④学生募集の強化 ・専門ゼミ担当教員に学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼する(科目等履修生)。 ・卒業生へ郵送・メールで案内を送る。キャリアセンターによる卒業生調査等との連携可能性を探る。 ・オンライン個別相談会を12月にも実施する。 ・国内アニメ制作会社との協力・連携事項を実行する。 ・海外提携先(北京第二外国語大学、北京語言大学、吉林动画学院)からの留学生受け入れのための募集対策として国内アニメ制作会社との連携協定を活用する。 ・吉林动画学院とASIAGRAPHを通じてアニメーション作品の応募を通じて交流を実施する。 ・新たな学生募集先として日本語学校を模索し、協力・提携関係を設けることで安定的な学生確保の手立てを探る。	
⑤中長期目標の検討 ・将来構想プログラム委員会を中心に研究科としての方向性の検討を継続する。 ・将来構想としてBM全体の検討を進める。その中で・会計プログラムに必要な科目を段階的に追加していく計画も検討する。 ・内部進学に加えて学部卒業生のキャリアアップや学び直しのニーズに応えるための研究科のあり方や施策等を検討していく。	

DO(実施)	
D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討	
①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・昨年度につづき税理士試験の科目免除を目指す社会人のニーズへの対応として、会計科目を2科目(簿記論研究Ⅰ「簿記論研究Ⅱ」)を追加開設した。 ・コース別フィールドワーク科目系列の2025年度新規科目としてインターンシップ科目(4科目8単位)を設置した。 ・将来構想プログラム委員会にビジネス・マネジメントコースをコンテンツ・マネジメントコースに統合し、会計・マネジメントコースを開設する構想案について提案がなされた。	
②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトにて教員、院生・修了生の活動や業績等の情報発信をした。 ・大学院説明会に加えオンライン相談会を12月に実施した。 ・BM/CM/TMの合同修士論文中間報告会を9月1日(日)、BM/CMの公開報告会を2月23日(日)に学生の司会進行にて開催した。	
③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・学部教務委員会担当の新入生学修ガイダンスで、研究科委員長が大学院と内部特別選考について説明する機会を得られた。 ・内部特別選考の事前説明会にCMの在学生が参加し体験談を語った。 ・教授会で内部特別選考について説明し、教員に進学を希望する学生の推薦を依頼した。 ・9月16日に学部授業を公開セミナーとして開講し、大学院説明会を実施(学部生9名、卒業生1名、大学院生1名、社会人3名)した。	
④学生募集の強化 ・専門ゼミ担当教員に学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼した(科目等履修生)。 ・オンライン個別相談会を12月に実施した。 ・中国、アジア圏のコンテンツ業界志望者をターゲットとして、国内アニメ制作会社と包括連携協定を4月10日に締結した。 ・協定先のアニメ制作会社へCMコースの中国人留学生1名をインターンとして派遣した。 ・研究科教員が北京に渡航し、推薦入学協定を結んでいる北京語言大学にて大学院説明会と模擬授業を実施した。	
⑤中長期目標の検討 ・将来構想プログラム委員会を中心に研究科としての方向性を検討した。 ・将来構想の検討のなかで、会計プログラムを将来的にBMコースから独立させる構想案、BMとCMを統合させる構想案が示された。 ・内部進学に加えて学部卒業生のキャリアアップや学び直しのニーズに応えるための研究科のあり方や施策等を検討した。	

80%

CHECK(評価)	
C:目標と実際の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	
評価	評価の理由/課題/根拠データ等
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討	
①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・会計科目の2科目追加解説により会計分野のカリキュラム改訂がさらに進んだ。 ・インターンシップ科目(4科目8単位)を設置→包括連携協定を結ぶアニメ制作会社がインターンシップを授業化することが可能になった。	①ビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 新規開設科目「簿記論研究Ⅰ/Ⅱ」「インターンシップⅠ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ」
②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトにて教員、院生・修了生の活動や業績等の情報発信を継続し、オンライン相談会も新たに12月に実施したことが直接の要因になったが確証はないものの、結果として参加者人数が4人増加した。	②大学院説明会・オンライン相談会の参加者人数 22年度:41名 23年度:38名 24年度:42名
③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・経営学部から外国人留学生が1名、BMコースに内部進学により進修した。 ・会計学を体系的に学んでいない内部進学希望者が、3年間で修了する学修計画を立て、社会人1年目の本年度は科目等履修生となり会計科目を履修し、2年目の2025年度に正規生となった。 ・教務グループが実施した2年・3年生履修ガイダンスで内部特別選考について説明されなかった。	大学院説明会参加者数内訳 8月)BM1名、TM21名、合計22名 12月)TM 15名 オンライン個別相談参加者数内訳 1月)TM 5名
④学生募集の強化 ・教授会で学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼した結果とは言えないものの、8月の大学院説明会に経営学卒の女性が生1名参加したので、BMコース担当教員2名が面談し、学び直しのニーズがあることを確認できた。 ・昨年度に続き吉林动画学院からASIAGRAPHへのアニメーション作品の応募はなかった。	
⑤中長期目標の検討 ・BMコースとCMコースの志願者のニーズが異なることから、両コースを統合すると学生募集にマイナスの影響が出る懸念があることが指摘された。 ・「会計・マネジメントコースを開設するためには、学生募集の実績を積み上げる必要があることが指摘された」 ・F0研修会「2024年度最重要課題と到達目標」を振り返ることにより、研究科とゼミ単位での学生募集(BM/CM各ゼミ2名、TM各ゼミ5名)によって収容定員を充足可能なことが示された。	

ACITON(次への改善)	
A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
(1)中期計画「B's Vision 2029」の方針を踏まえて年次目標の設定および中長期目標の修正を検討	
①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・研究科3コース全体のバランスを考慮しながら、社会的ニーズや環境変化に対応したカリキュラム改定を継続していく。	
②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・生涯にわたる学びをサポートする大学という表現に変更する ・研究科webサイトにて教員、院生・修了生の活動や業績等の情報発信を継続する。 ・学生募集企画としてのオンライン相談会をⅡ期入試に向けた12月に加えてⅢ期入試に向けて1月にも実施する。 ・研究科webサイトの更新や拡充については大学の財政状況の関係でコスト面の制約があるため可能な範囲で検討する。	
③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・経営学部からの内部進学を確保するために継続的に実施している下記の施策をより徹底して実行する。 ・新入生学修ガイダンス、2年・3年生の履修ガイダンスで内部特別選考について説明する。 ・内部特別選考の事前説明会で在学生が体験談を語る。 ・専門ゼミ担当教員へ前期中から内部進学の可能性のある学生の推薦を募る。 ・教務グループが実施する2年・3年生履修ガイダンスで内部特別選考について説明するように依頼する。 ・学部生が就職1年目に科目等履修生となり2年目から正規性となるケースをモデル化して周知していく。	
④学生募集の強化 ・オンライン個別相談会を拡充する。 →Ⅲ期入試に向けたオンライン個別相談会を新たに1月に実施する。 ・吉林动画学院からASIAGRAPHへのアニメーション作品の応募を促す施策を検討する。	
⑤中長期目標の検討 中期計画「B's Vision 2029」に示された教育力日本一を目指す4つの基本方針を踏まえて研究科としての中長期目標の追加修正等を検討していく。 「B's Vision 2029」の4つの基本方針 1.地球市民の育成 2.ストレス耐性の高い人材の育成 3.学ぶ喜びのある教育環境 4.生涯にわたる学びのサポート	

⑥2025年度 経営学研究科

PLAN(計画)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
(1)中期計画「B's Vision 2029」の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の修正を検討	
①教育力日本一を目指した継続的なカリキュラム改訂 ・研究科3コース全体のバランスを考慮しながら、社会的ニーズや環境変化に対応したカリキュラム改定を継続していく。	
②生涯にわたる学びをサポートする大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトにて教員、院生・修了生の活動や業績等の情報発信を継続する。 ・学生募集企画としてのオンライン相談会をⅡ期入試に向けた12月に加えてⅢ期入試に向けて1月にも実施する。 ・研究科webサイトの更新や拡充については大学の財政状況の関係でコスト面の制約があるため可能な範囲で検討する。	
③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・経営学部からの内部進学を確保するために継続的に実施している下記の施策をより徹底して実行する。 ・新入生学修ガイダンス、2年・3年生の履修ガイダンスで内部特別選考について説明する。 ・内部特別選考の事前説明会で在学生が体験談を語る。 ・専門ゼミ担当教員へ前期中から内部進学の可能性のある学生の推薦を募る。 ・教務グループが実施する2年・3年生履修ガイダンスで内部特別選考について説明するように依頼する。 ・学部生が就職1年目に科目等履修生となり2年目から正規性となるケースをモデル化して周知していく。2024年卒マーズ・デザイン専攻学生(旧カリ)→BM会計分野	
④学生募集の強化 ・オンライン個別相談会を拡充する。 →Ⅲ期入試に向けたオンライン個別相談会を新たに1月に実施する。 ・吉林动画学院からASIAGRAPHへのアニメーション作品の応募を促す施策を検討する。	
⑤中長期目標の検討 中期計画「B's Vision 2029」に示された教育力日本一を目指す4つの基本方針を踏まえて研究科としての中長期目標の追加修正等を検討していく。 「B's Vision 2029」の4つの基本方針 1.地球市民の育成 2.ストレス耐性の高い人材の育成 3.学ぶ喜びのある教育環境 4.生涯にわたる学びのサポート	

(2) 教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ・後期の実施に向けてテーマを検討。 ・専門家に加えて新任教員や修了生教員も講師の対象として検討する。 ・従来の専門家による講演会形式に加え、によるグループディスカッション形式等の開催方法も検討する。	(2) 教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ・客員教授が元資生堂アートディレクターでグラフィックコーディングを会議において活用し成果を上げていたことから、「企業におけるアートディレクターの役割とグラフィックコーディングの活用」というテーマで講演と実演をしていただく計画を立てた。 ・昨年度、Ⅲ期入試日に実施したFD研修会のテーマを引き継ぎ、将来構想をテーマとする研修会をⅢ期入試日(3月1日)に実施した。	70%	(2) 教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ・教員の視点や知識を広げるような企業経営に関する研究に関するFDよりも、教学改革に関連するコース開設に関心が集まったため「企業におけるアートディレクターの役割とグラフィックコーディングの活用」については実施されなかった。		(2) 教学IRの視点からFD研修会の実施計画 教学IRを「教育・学修」に焦点を置いた以下のような活動として捉えて研修会の企画を検討する。 1) 学生の入学前～修了後までの学修データの分析(GPA、履修履歴、修得単位数など) 2) 学生満足度調査、授業評価アンケートの分析 3) 学習成果の可視化(ルーブリック評価など) 4) 教員・学部へのフィードバックを通じた教育改善の支援 5) カリキュラムの効果検証	(2) 教学IRの視点からFD研修会の実施計画 教学IRを「教育・学修」に焦点を置いた以下のような活動として捉えて研修会の企画を検討する。 1) 学生の入学前～修了後までの学修データの分析(GPA、履修履歴、修得単位数など) 2) 学生満足度調査、授業評価アンケートの分析 3) 学習成果の可視化(ルーブリック評価など) 4) 教員・学部へのフィードバックを通じた教育改善の支援 5) カリキュラムの効果検証
(3) ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ① 対面開催の院生交流会(修了生含む) ・教員合同院生交流会の機会を検討する。 ・教員合同院生交流会ではM2の代表学生が幹事となり企画・準備・進行を担当する形式を継続する。 ② 在学生・修了生の研究報告会 ・2022年度に実施した修士論文報告会との併催企画を検証し、実施時期・方法を検討する。 ・年2回の修士論文報告会・研究報告会への参加学生を増やすための対策を検討する。	(3) ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ① 対面開催の院生交流会(修了生含む) ・BM・CM合同の修士論文中間報告会及び公開報告会に1年生も参加した。 ・対面形式で開催された。 ・M2学生による司会進行によって実施した。		(3) ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ① 対面開催の院生交流会(修了生含む) ・ストレス耐性を育むことに加えて1年生の学びの場として機能した。 ② 在学生・修了生の研究報告会 ・修了生を講師として迎えることができず実施が見送られた。 ・昨年度まで修士論文中間報告会及び公開報告会と同日に実施してきたが、長時間の拘束が参加者にとって弊害となる。		(3) ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ① 対面開催の院生交流会(修了生含む) ・引き続きBM・CM合同の修士論文中間報告会及び公開報告会を教員合同院生交流会の場とする。 ・教員合同院生交流会に修了生も参加できるように、候補者リストを作成し前期にコンタクトをとる等の対策を実施していく。 ② 在学生・修了生の研究報告会 ・修了生を講師として迎えることができるよう候補者リストを作成し前期にコンタクトをとる等の対策を実施していく。 ・修士論文中間報告会及び公開報告会と別の開催日程を検討する。	(3) ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ① 対面開催の院生交流会(修了生含む) ・引き続きBM・CM合同の修士論文中間報告会及び公開報告会を教員合同院生交流会の場とする。 ・教員合同院生交流会に修了生も参加できるように、候補者リストを作成し前期にコンタクトをとる等の対策を実施していく。 ② 在学生・修了生の研究報告会 ・修了生を講師として迎えることができるよう候補者リストを作成し前期にコンタクトをとる等の対策を実施していく。 ・修士論文中間報告会及び公開報告会と別の開催日程を検討する。
(4) DPを踏まえた授業満足度 2023年度授業評価 4.80(5点満点) 2024年度は2022年度「4.89」を超える「4.90」を目指す。	(4) DPを踏まえた授業満足度 2024年度授業評価 4.70(5点満点) 2023年度授業評価 4.80(5点満点)		(4) DPを踏まえた授業満足度 ・満足度が1.0ポイント低下し、目標値「4.90」に達しなかった。アンケートの回収率が低いことが影響したと考えられる。		(4) DPを踏まえた授業満足度 ・2025年度も2022年度「4.89」を超える「4.90」を目標値とする。 ・アンケートの回収率を高めるためアンケートフォームを従来の科目別から1つのフォームに集約することで、学生が回答しやすくなる。	(4) DPを踏まえた授業満足度 ・2025年度も2022年度「4.89」を超える「4.90」を目標値とする。 ・アンケートの回収率を高めるためアンケートフォームを従来の科目別から1つのフォームに集約することで、学生が回答しやすくなる。